

【活用にあたって】

オノマトペ（擬声語・擬態語）については、授業で取り立てて指導することが少なくなりました。文学作品の読み取りで表現の工夫として指導するくらいでしょうか。「もずの声がキンキンひびいていました」の「キンキン」に着目させ情景を読み取るような学習です。

表現のおもしろさを実感させるには、このオノマトペに着目させ、オノマトペを抜いた表現と比較させるなどの表現を吟味するという学習活動を仕組むことが大切です。

物語をオノマトペだけで表現する発展問題はとても難しいのですが、擬声語・擬態語辞典などを参考にさせるとよいでしょう。

解答例

問1：見た目や手触りなどの感覚を言葉で表現したもの

問2：浮き浮き、わくわく

発展：「ごんぎつね」「大造じいさんとガン」など心に残っている物語を読み返し、作品世界をオノマトペだけで表現してみましよう。そう考えた理由は、「～だから、—です」というように根拠をあげて書くことです。